

2019年6月県議会

高村京子県議会報告

6月27日に一般質問を行いました



ひきこもり状態の方々への支援について

県は民生児童委員を通じて引きこもり状態にある方の調査を初めて行い、県内で2,290人おられると発表した。40代50代で10年以上も引きこもっている方々が4割もおられる。本人や家族の悩みや不安に寄り添う相談窓口の充実と連携強化が必要です。SOSにしっかり対応を。

⇒大月健康福祉部長「引きこもりになる原因は様々であり、個人の問題ではなく社会全体の問題として受け止め関係部局が連携をして包括支援をしていくことが必要と考えている。」

高すぎる国保料軽減に向けた検討を

国は国民健康保険料（税）率の統一化を進める方向だが、現在の保険料は高く払えない滞納世帯も出ている。県内の保険料は3倍もの差があり、医療体制の地域差も大きい。検討に際しては市町村や県民の意見を十分反映すべき。市町村による保険料軽減の独自努力は尊重すべき。

⇒大月健康福祉部長「均等割は逆進性が高く、子どもの多い世帯ほど保険料が重くなる課題があるため改善を国に要望している。3つのワーキンググループでは市町村

長や担当者会議で2年かけて丁寧に話し合う。県民の皆様の意見も聞き反映する。市町村の保険料引き下げ等の独自努力は尊重する。」

県の責任でもある大北森林組合への支援について

大北森林組合補助金不正問題で、県は大北森林組合に30年間で約9億円もの返還金を求め経営改善に向けた支援をするとしているが、職員体制が弱まり経営状況は一層厳しくなっている。承認した県の責任も重い。県としてもっとしっかり支援を強めるべきではないか。

⇒阿部知事「大北森林組合が、地域の中核的な担い手としての役割を発揮でき、補助金等の確実な返還がなされるように指導支援の両面から取り組んでゆく。」



長野県原種センターを視察
(6月19日)

県民文化健康福祉委員会では、県が今年度末に作成するとしている「長野県障がい者共生社会づくり条例（仮称）」の考え方について、障がいをおもちの方も共に地域で暮らし合う、「豊かで安心の社会をつくろう」の精神を基調に、と発言しました。



今年度、高村は県議会推薦で「障がい者施策推進協議会委員」に県から委嘱されました。



(左から) 和田あき子、山口のりひさ、もうり栄子、両角友成、高村京子の各氏
(5月14日)

県民要求実現へ全力でがんばります

改選後の県議団が5人でスタートしました。

交渉会派でなくなったことや代表質問ができなくなったことは残念ですが、道理ある積極的な提案をさせていただきながら、フットワーク軽く地方議員団の皆さんとも協力し合い、県下各地に足を運び、県民要求実現のために、力いっぱい頑張っています。

この間、臨時議会、6月議会がありましたが、意見書など私どもが提案させていただいたことが、全体の合意となったこともあり一歩一歩進んでいることは嬉しいことです。一層頑張っていますのでよろしくお願い致します。

県議団長 もうり栄子

新しい所属委員会は以下の通りです。1年間この体制で奮闘してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

もうり栄子議員…総務企画警察委員

両角友成議員…危機管理建設委員・議会運営委員・広報委員

高村京子議員…県民文化健康福祉委員・障がい者施策推進協議会委員

山口のりひさ議員…農政林務委員・決算特別委員

和田あき子議員…環境文教委員

日本共産党県議会報告

No. 1 2019年8月 【2019年6月定例議会報告】

ご意見・ご要望をお寄せください。

発行/日本共産党長野県議団 〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2 長野県議会日本共産党控室
TEL 026-237-6266 (直通) FAX 026-237-6322
E-mail jcpngnkd@avis.ne.jp ホームページ <http://www.jcpnagano-kengi.jp/>

